

「島田市家庭教育サポートチーム」からの回答

【学習会、親学講座について】

Q. 子どもの発達段階に応じた保護者への学びの場をどのように提供しているのか。

A. ペアレントサポーターの活動ではなく、社会教育課としての家庭教育講座になりますが、子供の年齢別に応じた講座を開催しています。0歳児を持つ親を対象とした講座をはじめ、幼児期家庭教育講座や、幼児・児童を持つ親の講座、小中学生の子を持つ親の講座等、発達段階に応じた学びの場を提供しています。

Q. 就学時健康診断、入学説明会以外で親学講座を実施しているのであれば教えてほしい。

A. 現在、親学講座を実施しているのは、就学時健診と入学説明会のみです。

【親学ノートについて】

Q. 活用事例を何点か教えてほしい。また、活用状況はどのように調査しているのか教えてほしい。

A. 親学ノートは「保存版」としてしています。社会スキルを教えることや、親子のコミュニケーションについては、入学後に読んでも改めて再確認ができる内容です。また、親学ノートでは、子供が当たり前に行っていることも褒めてあげよう、と伝えています。入学前にできなかったことが、入学後に見返してできるようになっていれば、それを褒めてあげることができます。

また、島田市では、一年生の保護者全員を対象とした家庭教育学級を開講し、1年間で5回程度の学習会を通して、保護者同士が学び合う機会をつくっています。その中で、ペアレントサポーターがファシリテーターとなる学習会を必須の学習メニューとしているため、その際に親学ノートの活用について、入学後に改めて呼びかけています。

【支援チームの活動について】

Q. ペアレントサポーターは、どのような方で構成されており、どのように決めているのか。また、その存在は、保護者や地域の方々にとどの程度認識されているか、認知度を上げるために工夫していることがあれば教えてほしい。

A. 元教員や、元保育士、学童保育指導員など幅広いジャンルの方で構成されています。家庭教育学級の役員経験者等の中から、家庭教育学級アドバイザーとして家庭教育学級に関わった後、島田市ペアレントサポーター設置要綱の規定に該当し、責任を持って活動を遂行していただけると考えられる人に声を掛けるようにしています。

保護者や地域の方々への認知度については、島田市でも課題となっています。そのため、来年度はペアレントサポーターの紹介として、市の広報誌への掲載や、ホームページの作成を計画しています。

Q. 3つのチームに分かれての支援活動のよさと課題を教えてください。また、活動内容や回数、相談対応や訪問型支援はどのように行っているのか。

A. ペアレントサポーターそれぞれが得意分野とする内容があるため、チームごとに活動することで活動内容が明確となり、効率よく進められています。また、チームを兼任しているメンバーもいます。この3チームに分かれての活動については、課題は今のところありません。

家庭教育サポートチームは18小学校を対象とした親学講座と、25小中学校を対象としたつながるトークを実施しています。就学時健診や入学説明会の保護者が集まる機会に、こちらから出向いて講座を行っています。

子育て広場チームは、0歳児を対象とした子育て広場「あかちゃん部」を月1回、未就園児を対象とした子育て広場「ぐうちよきぱあ」を月2回実施しており、保護者の相談対応を行っています。必要に応じて子育て応援課や健康づくり課等の支援担当課や専門機関へつないでいます。訪問型支援については島田市でも課題となっています。

読書推進チームは、大人向けの読み聞かせ講座「絵本の広場」を年1回開催しています。

Q. サポートチームの活動拠点はどこか、チームの活動状況とスタッフ会・研修会のとり方について教えてください。

A. サポートチームの活動拠点は小中学校です。新一年生の保護者を対象とした親学講座の講師や、小学校の家庭教育学級や小中学校の保護者会・懇談会において実施するつながるトークのファシリテーターを行います。ペアレントサポーター全体の定例会や、チームごとの定例会は、年度初めに年間計画として組んでいます。また、社会教育課主催の家庭教育講座や県主催のフォローアップ研修等に参加することを研修としています。

Q. 定例会の回数やチーム員同士のつながり等の工夫を具体的に教えてください。

A. 年6回の定例会を実施しています。そのうち全体会が2回、家庭教育サポートチームが2回、子育て広場チームと読書推進チームがそれぞれ1回ずつとなっています。定例会での意見交換の他、ペアレントサポーター数名での自主講座開催など、ペアレントサポーターの活動以外にも、様々な家庭教育支援活動でペアレントサポーター同士がつながっています。

Q. 就学時健康診断の際の学習会は、一人のペアレントサポーターが講師をするのか、何分くらいの講義をするのか。

A. 1学校1人のペアレントサポーターが講師をしています。15分程度の内容でペアレントサポーター自らシナリオを作成しています。

【地域との協働について】

Q. 現在の活動は、教育委員会、家庭教育支援チームが中心となって行っているが、今後、地域住民と協働を考えているのであれば、どのような展望をもっているのか教えてほしい。

A. あかちゃんふれあい体験事業は、中学生や子育て中の親、市民学級の地域住民をつなぐ講座となっています。このような活動を通して、地域住民にペアレントサポーターの活動を知っていただきながら、地域で子どもを育てる意識が定着していければと思っています。今後、島田市でも地域住民と協働していく上で、他市町の活動を参考にさせていただき、検討していきたいと思いますので、情報提供してくださるとありがたいです。

【その他】

Q. 今後活動してみたいことや改善したいことを教えてほしい。

A. 7か月児健康相談や、1歳6か月児健康診査、3歳児健康診査等の健診や、幼稚園へ出向いていく等、アウトリーチ型支援の活動を充実できたらと思います。これらの場所に出向いていくことで、ペアレントサポーターの顔を覚えてもらい、子育て広場等につながっていただけるのではと考えます。

Q. 困っている問題もあれば教えてほしい。

A. ペアレントサポーターの活動は、できる人ができるときに行うよう、1人に負担がかからないような体制づくりを心掛けています。そのため、人材確保に向けて新たなペアレントサポーターの人材育成が課題となっています。

Q. 縦割り行政（組織）のなかで、上手く連携が取れていない現状である。よきアドバイス・ポイントを教えてほしい。

A. 年度初めに、子育て応援課や健康づくり課の関係課と実施事業の打合せを行っており、互いの事業を把握するようにしています。また、ペアレントサポーターの定例会において、関係課職員が出席し、事業の説明や情報交換を行うことで、保護者の相談や悩みに応じて案内ができるよう連携に努めています。特に子育て広場チームは、子育て広場での保護者の相談対応を行っているため、必要に応じて子育て応援課や健康づくり課等の支援担当課や専門機関へつないでいます。

Q. 公民館と連携して取り組んでいる活動があれば教えてほしい。

A. 読書推進チームが実施する絵本の広場や、子育て広場チームが運営する子育て広場は、公民館を会場としており、これらのチラシも各公民館で配架し周知を行っています。